

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和8年3月定例会	
議案番号 議案名	議案第69号 令和8年度松戸市一般会計予算
議員名・会派名等	嶋原 舞
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	<p>【賛成理由】</p> <p>今回の予算は、少子高齢化の進行、社会保障費の増大、公共施設の老朽化など、厳しい条件の中での編成となっていますが、その一方で、都市インフラの更新、デジタル化・DXの推進など、将来に向けた投資も一定程度位置付けられています。</p> <p>松戸市の持続可能性と将来世代への責任を考えたとき、こうした中長期の視点を盛り込んだ予算の方向性については、評価し、賛成するものです。</p> <p>しかしながら、これは決して「手放しでの賛成」ではありません。市長公約を背景に、従来施策の取捨選択や重点化が進められる中で、「変える」「やめる」「縮小する」事業も少なくない以上、その根拠と検証の在り方については、これまで以上に厳格さが求められます。</p> <p>そこで、今回新たに導入されたサンセット方式について申し上げます。新規事業にあらかじめ期限を設け、その期間中の成果を検証したうえで、継続・拡充・縮小・廃止を判断する枠組み自体は、限られた財源を将来世代も含めて有効に配分するうえで、有意義な考え方です。一方、その効果検証・評価に用いる指標、すなわち「ものさし」をどこに置くかを誤れば、サンセット方式そのものが、市民サービスの質をじわじわと下げる仕組みに転化しかねません。</p> <p>ひとつの例として、短期のアンケート結果や、市民満足度といった指標に偏れば、「わかりやすく、今すぐ喜ばれる事業」ばかり</p>

が優先され、本来は時間をかけて効果が現れる教育・インフラ・地域経済への投資、いわば将来の松戸を支える土台づくりの事業が、不当に縮小・廃止されるおそれがあります。

そのため、サンセット方式においては、主たる評価のものさしは、松戸の未来を支える中長期的な視点、具体的には、例えば次のような観点で評価に明確に置くべきと考えます。

- ・定住人口や子どもの数など、人口動態を下支えしているか。将来の松戸の担い手を増やす方向に働いているか。

- ・子育て世代や働く世代の転入・定着につながっているか。松戸を「住み続けたい」「選びたい」と思わせる要因になっているか。

- ・地域経済や税収基盤の強化といった、中長期の経済効果につながる投資となっているか。

20年、30年という時間軸で見たときに、まちのブランド力・将来の選ばれる力を高める事業となっているか。

こうした指標を複数年度にわたり追跡・検証する仕組みを、サンセット方式の設計の中に組み込むことが不可欠であり

「今この瞬間の満足度」だけではなく、「20年後・30年後に、この事業が松戸にもたらした価値」をきちんと測る長期のものさしを、最初から埋め込んだサンセット方式とすることを、強く求めるものです。

もし、短期の満足度のみを重視する運用が行われるならば、それはサンセット方式の名を借りた、単なる歳出削減や見栄えを重視する政策に過ぎません。

新たな施策や施設整備を行う際には、本当に松戸が住み続けたい松戸になっているか、将来まで見据えた費用対効果の検証を徹底することを強く求めます。

以上を踏まえ、本予算が松戸市の将来を見据えた方向性を一定程度共有できるものであると判断し、賛成いたします。

市長公約との整合性、サンセット方式の運用、事業評価の指標のあり方については、今後も厳しく吟味し、必要な見直しを求め続けます。

市長の市政運営に大いに期待し、私としても、その挑戦をしっかりと検証し、必要な提案・修正を重ねながら、ともに松戸の将来を形づくっていくことを申し添え、賛成討論といたします。